

## < information >

ハチミツ ローヤルゼリー プロポリスの専門店



〒361-0073 埼玉県行田市行田5-6  
行田店 048(550)4783 武州養蜂園



〒355-0328  
埼玉県比企郡小川町大塚32  
Tel. 0493-72-038 (代)  
Fax. 0493-74-1338

### 広告募集

ひこうせんでは、企業広告の掲載をしております。ご希望の企業・団体の方は、ひこうせんまでご一報下さい。

### お問い合わせ

C I L ひこうせん  
Tel : 048-555-1100

### 編集・発行

NPO法人 C I L ひこうせん

〒361-0071 埼玉県行田市栄町22-5

TEL : 048 (555) 1100  
FAX : 048 (555) 1301

### 編集後記

朝、晩、めっきり寒くなりました。  
皆さん、朝、布団の中から起きるのが大変になりましたね。  
秋と言えば…食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、収穫の秋。  
食べる物が美味しくなりました。メタボにならない様に気をつけてください。  
今回は、ひこうせん通信は「特集号」でお送りしました。いかがでしたか？  
皆様も秋の夜長においしいものを食べながら、この通信を読んで頂けたら幸いです。

編集長  
大塚 則幸

# ひこうせん通信 VOL.25

住所：〒361-0071 埼玉県行田市栄町22-5

TEL : (048) 555-1100

FAX : (048) 555-1301

H P : <http://www.tvg.ne.jp/npo-hikousen/hikousen.html>

E-mail : cil-hikousen@tvg.ne.jp



### 特集

障害者の就労を考える  
(大阪出張報告)

絵：原口めぐみ

## もくじ

表紙／もくじ	1	大庭紀行	12
障害者の就労を考える（大阪出張報告）	2	あっと！キミコ	13
第二事業部 開設！	7	温故知新	14
平成20年度 各部からの事業報告	8	各部署からのお知らせ	15
こころもよう	10	インフォメーション・編集後記	16

# 障害者の就労を考える

## 一大阪の実践例に学ぶー

報告者:理事長 木村浩章

9月10日(水)～12日(金)まで、ひこうせん内でアート活動や就労に関わっている職員で大阪のアートや障害者の就労を先駆的な事業を行っている2つの団体を視察に行きました。

それぞれの団体の事業内容と私の感想を報告します。

### 1 アトリエインカーブ

アトリエインカーブ(以下、インカーブと記す)は、1998年9月に大阪市に無認可作業所「アトリエ万代倉庫」を設立され、スタートしました。創設者は、現在、アトリエインカーブの運営主体である「社会福祉法人素王会」の理事長である「今中博之」氏です。

今中氏ご自身も重度の身体障害者で一級建築士でもあります。

現在、インカーブの運営形態としては、障害者自立支援法の中の「生活介護」のサービス事業所として運営され、現在、25名の利用者がいます。

インカーブの目的にしていることは、彼らが「障害をもつアーティスト」ではなく、「一人のアーティスト」として、自信と誇りを持って独立させることです。

インカーブの主な事業内容は、インカーブに通う障害者一人一人をアーティストとして位置づけており、各アーティストが好む絵画、造形、陶芸、版画、金工、CG等の創作活動をしています。その彼らの作品を最も良い方法で発信し、社会の中で生かせるような機会を作っています。そして、これらの作品を介してアーティストたちが世の中に結びついていくことは、彼らが収入を得ることにもつながっています。現にインカーブでは、アメリカのニューヨークにある画廊と提携し、中には200万円超える値が付いた作品もあります。

インカーブの職員は、「スタッフ」と呼ばれ、皆が絵画やグラフィックデザイン、彫刻、工芸、写真、建築等を学び、様々な分野で仕事をしてきた人たちです。このスタッフの役割は、決してアーティストの創作活動に指導や助言せずにアーティストが安全で平和、かつ刺激的な創作環境になるようにサポートです。また、デザイナーでもあるスタッフは、アーティストの作品を用いて、デザインをし、オリジナルグッズの作製やその販売です。

インカーブの施設もとてもオシャレな外観(今中氏が自ら設計をされた)で活動も従来の障害者の授産施設や作業所のいわゆる授産活動等を根底から覆すものです。とても実際に今中氏の説明や創作活動の様子を拝見し、新しい障害者就労のあり方を学びました。

尚、来年3月21日に開催予定をしている、シンポジウムでは、インカーブのスタジオマネージャーの「三宅優子」氏が講演して頂ける予定です。



### 2 財団法人箕面市障害者事業団

財団法人箕面市障害者事業団(以下、事業団と記す)は、大阪市から車で約40分のところにあります。

この事業団は、1990年に箕面市から10億円を出資して、その資金を基盤に財団法人を設立しました。事業内容は、主に箕面市から委託された公園花壇管理やカンやピンの分別作業、市内の公共施設内で喫茶店やフラワーショップの運営、障害者雇用支援センターの運営等をしています。

中でも雇用支援センターは、1996年に設立以来、約100件も就職させたそうです。このうち離職は、44件あります。

この雇用支援センターの職業準備訓練の一つとして、事業団が運営している喫茶店やフラワーショップでの就労訓練を行い、ここで「働く力」等身に付けています。また、これまでに就職した人たちを対象に月一回「就労者の集い」という集会を開催し、そこで仕事上の悩み等を聞いており、就労後のフォローアップをきちんと行っていました。

この事業団の就職先は、箕面市の産業にも関わっていると思いますが、最近の傾向としてレストランやコンビニ等のサービス業に雇用されることが多くなってきたそうです。

最近は、各地で雇用支援センターや自立支援協議会の中の就労部会等が設置されるようになりましたが、障害者の就労支援の先駆けとして、大変参考になりました。

### 3 まとめ

インカーブも事業団も事業内容の違いはありますが、共通して言えることは、障害者の経済的自立だと私は思いました。

インカーブは、社会福祉の言うところの「福祉的就労」と言われますが、インカーブの活動では、もうアートビジネスの域に達していると感じられました。

これまでの授産施設や作業所の作業内容は、内職的作業が多く、工賃も非常に低いものでした。しかし、インカーブでは、クリエートの創作活動しておりしかも洗練された作品を社会にだしています。これによって、高額な収入を得られるようになります。

これまでの障害者雇用では企業側が示した仕事に雇用される障害者側が合わせて雇用されていましたが、最近では、ICFの考え方や企業の社会貢献の考え方が主流になっています。それによって、雇用される障害者の障害レベルに合わせて雇用されるようになりました。

今回の大阪研修を通じて、私が感じたことは、一般就労や福祉的就労は問わずに多くの障害者が地域で自立生活を送れるような収入を得ることと思いました。そのための手段として創作活動や就労支援があります。ひこうせんもこれらの考えに基づいて、より、生活や就労支援の高めたいと思っています。

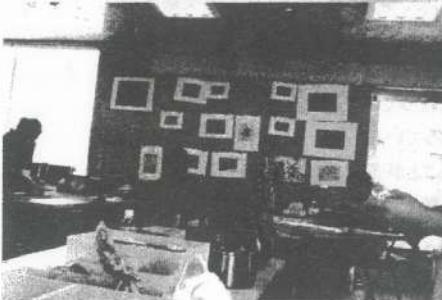
# アトリエ・インカーブ



インカーブは思わず見とれるようなオフィスでした。



木材や工具がびっしり揃っていて  
まさにアトリエ！



みんな自由に絵を描いたりお話ししたり。



お屋を食べたり、DVDを見たり  
するくつろぎスペース。美しい！



各自の目標に合わせた学習予定を  
立てています。



エクセルの勉強をしている人たち。



事業団が運営している喫茶店。給仕は訓練を受けた障害者が運んでくれます。

箕面市  
障害者事業団

# 大阪出張 感想

## アトリエインカーブの実力

齋藤 貴美子（副理事長）

アトリエインカーブを訪問して、まず、感じたことは、インカーブが、障害福祉サービス事業所であるとはとても思えないところだということでした。

第1に、今中さんのコンセプトが、利用者をアーチストと呼び、そのアーチストに誰もがアーチストとして関わり、制作を手助けすることが毎日の取り組みなのです。今中さんは、通所しているアーチスト全員の「自立」ではなく「独立」を目指していました。そこには、今中さんのアーチストに対する、真正面からの向き合いと深い愛情を感じました。「願えば叶う」、今中さんはさまざまな角度から、その目標を達成していくことでしょう。

第2に、今中さん自身が建物のデザインを手がけるデザイナーであり、インカーブの建物そのものが、今中さんの作品としてとても素晴らしいものでした。

余談ですが、ひこうせんの南河原のカフェ＆ギャラリーの建築での経験から、福祉を理解する建築デザイナーの存在が必要だと痛感しました。建築デザイナーが作業所を始め、障害者の利用する施設を、よりデザイン性の高い、素敵な空間を作り出してくれれば、利用者の感性がより豊かになり、満足度も増すのではないかと思います。のために、多少費用がかかるとしても、長期的な視点で、費用対効果を考えれば、ずっと効果的だと思います。

アトリエインカーブでの毎日は、利用者がどこまでその快適さを意識しているかは解りませんが、本当に素敵なところでした。私たちは、毎日を過ごす場所について、もっと意識的に快適なものにしていくべきだと思います。

第3に、アトリエインカーブは、当然と言えば当然ですが、作品の持つ力を、心底から確信しているということです。誰の作品かではなく、インカーブのアーチストが生み出した作品そのものを、作品としてインカーブがごくシンプルに、しかし、大胆に世の中に問うているのです。これは、インカーブが進もうとしている方向に自信或いは、強力な目的意識がなければできないことだと思います。

最後に、今回のアトリエインカーブの見学と研修は、ひこうせんにとってこれから事業を考える上で、単にデイケアのアートをどう展開していくかに止まらない新しい福祉のあり方を示唆し提起してくれています。南河原はすでに新しい方向に向かってスタートしています。アトリエインカーブで学んだこと、教えてもらったことを生かして、ひこうせんからの発信を手がけて行きたいと思います。アトリエインカーブのこれからにも大いに注目して、学ばせてもらいたいと思います。

## 目指すものは同じ！！

杉浦 英俊(第二事業部 部長)

9月10日～12日まで、ひこうせんの職員数名で大阪へ行きました。まず感じたのは38年ぶりにしかも片道約11時間自動車で乗りながら、無事に帰ってこられたことです。

まだ少し残暑があり、体力的にどうかとか途中でトイレに行きたくなったらどうしようと心配をしていましたが、参加者の皆さんに気を遣って頂き本当にありがとうございました。

さて、見学をさせて頂いた「アトリエ・インカーブ」ですが、そこはテレビで放映されたのを拝見してだったので少しイメージがありました。でも実際に行ってみるとやはり素晴らしいと思いました。目指すものは、ひこうせんと同じく障害者の自立ですが、方法はやや違っていました。「福祉」の観点ではなく企業としての職場を感じました。

障害者の作品という域をこえて世界に商品として認められていることに驚きました。

ただ、ほっとしたのは昼休みに理事長の今中氏が通所してくるなかまと卓球をしているほのぼのとしている光景がとても印象深かったです。

## アトリエインカーブ・財団法人 箕面市障害者事業団を見学して

高沢 紀子(ディケア職員)

### 《アトリエインカーブ》

アトリエインカーブに到着して、まず今中のデザインした建物に目が奪われる。外装だけではなく、内装にいたってもオシャレで素敵でした。福祉というのではなく、小さな「アトリエ」の集合体のような建物でした。

25名のアーティストには、自分専用の製作場が用意され、10時～15時の間なら好きな時間に出勤し、好きな時間に帰っても良いそうです。すべて、アーティストの自主性に任せてアートを、楽しみながら過ごしている印象が残りました。

また、ディケア こころ では、今後アート作品をどう売り込み、販売していくのか、営業先、管理の仕方などを模索しながら、頑張っていきたいと思います。

### 《財団法人 箕面市障害者事業団》

事業団では、一般就労に向けての作業訓練・支援を行っていました。担当の方からのお話では、基本的な挨拶・身だしなみを意外と出来ていない方が多いということでした。

「挨拶ができない」「だらしない」という基本的な事ができないないと、事業主からは受け入れが難しいそうです。事業主へのアプローチの大変さがとても伝わってきました。

## 大阪出張に寄せて

齋藤 和希(アルバイト)

インカーブに着いて、まず驚いたのはその外観の美しさです。「障害者の施設」と聞いて、一般に思い浮かぶものとは遠く掛け離れたデザインで、建物の中もセンスの良い棚や机が並べられていて、そこにいるだけでとても気持ちの良い空間が作られていました。

絵を描く環境もさることながら、作品の管理体制やスタッフのレベルなど、全てが高いクオリティで保たれています。しかし彼らにとってはこれが当然のこと、私たちの意識もそこまで高くあるよう見習うべきだと感じました。

午後は箕面市障害者事業団を見学させてもらい、こちらは障害者の自立や社会参加に向けて尽力している企業でした。身だしなみについてなど、企業に就職するための訓練を行っています。ひこうせんでも、今度の就労支援に向けて、企業に向けた訓練や、身だしなみについてなどをもう一度見直してみるとよいのではないかと思いました。

## インカーブ感想

石井 健吾(第二事業部)

ギャラリーを運営するにはプロになるしかない。ギャラリーをやってみて涙を流さないと本当に良いギャラリーはできない。もしギャラリーを本気でやるつもりなら今の仕事を辞めてギャラリーに就職して勉強しなさい。

まず大事なのは人の魅力である。見だしなみに気を使う。マナーに気を使う。

これら周囲の環境の魅力も絵画を魅せる上で重要である。

この事業を始める前に今中氏に会えて良かった。

早速、この洗礼ともとれるアドバイスをSpace Kの発展に役立ててみたい。

## 大阪出張感想

白石 真(第一事業部 レスパイト輪)

芸術がわからない私にとって、声を掛けていただいた時には大変驚きましたが、往復の運転を頼まれ日々の長距離運転だったので期待感いっぱい大阪へ行くことができました。

アトリエインカーブでは施設の充実さに驚きました。食堂やエレベーターがあり、アトリエ内は落ち込んだ雰囲気で、作品作りには最適な施設でした。作品にはそれぞれのテーマがあるようで、テーマを思い浮かべて作品を見ても想像もつかない形だったり、絵だったりと興味深いものばかりでした。

箕面市障害者事業団では、ひこうせんがこれからやろうとしてる多機能スペースを10年以上続けていました。接客やサービス等しっかり教育されているようで感心しました。

見るもの、聞いたことのほとんどが驚きばかりでしたが、自分にとって一番の収穫は埼玉・大阪間、2泊3日を同行したスタッフの力もあって、何事もなく行田に帰ってこれたことです。

大阪2泊3日の経験を今後のひこうせんでの活動に生かしていきたいです。

# 熊谷のArt gallery&Shop “Space K”

10月15日OPEN

熊谷のArt gallery&Shop “Space K”は、10月10日(金)にオープニングセレモニーが開催され、連休明けの15日(水)から本格始動します。CILひこうせんのオリジナルブランド“cocoro”的グッズや所属アーティスト達のアートが展示・販売されます。

Space K お問い合わせ  
埼玉県熊谷市鎌倉町137番地 新井ビル1F  
TEL:048-580-7852



## 熊谷にPAK同時設立！

space Kの建物内に、介護派遣サービス、熊谷バーソナルアシスタント(PAK)を新設しました。  
10月10日のオープニングを記念して、ひこうせんの杉浦さんにインタビューをさせていただきました！

Q1 派遣とヘルパーは何人ぐらい予定していますか？また、どういう人を入れる予定ですか？  
利用者はPAKを知り、利用したいと思った人全てを対象としていきたいです。また、ヘルパーは利用者の生活に合わせて十分なニーズを確保したいと思っています。ひこうせんの考えに沿った意識を高く持ち、介助の技術もレベルの高い人を探していくつもりです。

Q2 他の営業所からクレームが出たら、どのように対応しますか？

極力、そのようなことは無いようにしていきたいと思っていますが、お互いに良く話し合って理解の和を広げていきたいと思っています。

Q3 熊谷営業所の未来の計画はなんですか？

熊谷近辺の障害者が、その人らしく生き生きと充実した生活が送れるように、ハード面やソフト面を含め、地域をより良くしていきたいと思います。

Q4 家庭は大事ですか？仕事とどちらが大事ですか？

当然の事ですが、家庭が安定していなければ良い仕事は出来ません。また、仕事がうまくいかなければ家庭も円満とは言えません。

Q5 奥様とラブラブですか？

はい。ラブラブです。

# 平成20年度 各部からの

# 事業報告

## 第1事業部

内田 由利江(第一事業部部長)

### 学童きらきら

長い長い夏休み、毎日たくさんのメンバーと元気にプールに入ったり、ボーリングをしたりドライブして、大好きな電車を見に行ったりリトミックを行ったりと楽しく無事、過ごすことができました。「きらきら」としても一人一人の身近なプランを立ててアシスタント一同取り組んで参りました。子供の成長を楽しみに、これからもアシスタントのスキルアップを目指し、子供と共に楽しく「きらきら」の運営を行いたいと思います。皆さんのご協力宜しくお願ひ致します。

### レスバイト輪

平成21年4月1日から生活サポート制度の改正により、利用者の負担額が変更となります。ご承知下さいますようお願ひいたします。

### デイケアこころ

ひこうせん通信の「こころもよう」毎月報告をしておりますが、今年度は鴻巣のカフェギャラリーでアート展をやったり、ポストカードやトートバックを作成したりと、福祉のアート化に力を入れた取り組みを行ってきました。来年1月には郷土博物館で2回目のアート展を予定しておりますので、お楽しみに。

また、販売やリサイクルなども通常通り行っております。市役所やみらい、やすらぎなどへお越しの際は是非覗いてみてください。

## 第2事業部

杉浦英俊(第二事業部部長)

### ①派遣

第2事業部は熊谷で介護派遣事業と就労移行支援事業の事務所を設立し、それら事業の展開及び準備を進める部です。9月末に埼玉県から、居宅介護・重度訪問介護事業、訪問介護・介護予防訪問介護の認可が下り、10月からサービスを開始することになりました。介護派遣サービスの事業所名は「パーソナルアシスタントくまがや」です。熊谷近隣在住の利用者様の派遣を行います。よろしくお願ひします。

### ②事務所

9月3日（水）に熊谷事務所の工事が始まり10月に完成、10月10日（金）にオープニングセレモニーを行う運びとなりました。熊谷事務所の名称は「Space K」（スペースケー）です。パーソナルアシスタントくまがやと共によろしくお願ひします。

「パーソナルアシスタントくまがや」は「Space K」というお店中にあります。熊谷にお越しの際は是非お寄り下さい。

## 電算室を開設しました

齋藤貴美子（総務部長）

5つの認可事業を擁するようになり、事業規模も大きくなってきたことと、ITのセキュリティの確保のために、念願であった電算室を開設しました。まだ、本格的な稼働とはなっていませんが、これまでやってきた給与の電送や、請求事務などを電算室で一元処理できることを目指します。また、個人情報も電算室に集中させ、管理の明確化を目指します。

こうした電算室の業務が稼働すれば、各部の事務的な業務が、電算室に集中するので、各部での事務的な業務を減らすことができると考えています。

しばらくの間は、電算室への移行のための助走期間が必要です。みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

## 企画広報部

木村浩章(企画広報部部長)

企画広報部では、4月～9月までの事業報告は、

4月2日～15日 こころアート展 限りない挑戦 VOL1 「創楽」開催  
8月25日 パスツアー たくみの里（群馬県みなかみ町）実施

大きなイベントとしては以上です。

また、その他月1回「共生ゼミ」や「みんなの広場」（全体集会）、ワークショップを開催しています。

10月～2009年3月までの予定としては、  
10月4日 第5回パリアフリーウォッチング  
12月 クリスマス会  
2009年

1月10日～20日 こころアート展 限りない挑戦 VOL2 開催  
1月 新年会  
3月21日 シンポジウム開催

詳細は、随時「ひこうせん通信」にてお知らせします。  
多くのみなさんのご参加をお待ちしています。

## 正確な派遣を目指して

齋藤貴美子（PAG管理者）

度重なる派遣ミスが発生し、ご利用者さまをはじめ、関係各位には多大なるご迷惑をお掛けしていましたことを、管理者として深くお詫び申し上げます。

再発防止策を講じましたが、まだ克服したとは言えません。この間のミスは、担当者鈴木の体調不良によるものであり、体調の早期回復を期待し、業務に就いていてもらいましたが、にもかかわらず、ミスを発生させてしまいましたことを深く反省し、体調の回復が早期には見込めないと判断から、次のように対応することといたしました。

一つめは、派遣専用の電話を設置し、依頼や変更等の受付を一本化しました。

二つめは、派遣受付の流れを明確にし、エクセルを使って、一元化の処理をすることとしました。

三つめは、前日までにアシスタントに確認のメールをし、確実に返信してもらうことによってミスを無くすこととしました。

四めは、体調不良の鈴木は、担当から外し、サービス提供責任者の田中が鈴木の業務を全て、受け持つことといたしました。

これらの防止策をもって、派遣ミスを無くすることを目指します。派遣ミスは、最終的には、管理者やサービス提供責任者に責任がありますが、より良い正確な派遣をするためには、ご利用者さまやアシスタントの皆様のご協力が不可欠です。どんな些細なことでも、お気づきの点がありましたら、PAGまでお寄せ下さい。担当者一同、正確な派遣ができる能力の向上に努力します。その上で、みなさまの気づきが、派遣ミスを未然に防いでくれます。是非とも、みなさまのお力を貸していただきたく、お願い申し上げます。

# こころもよう

## <イベント・オン・パレード>

今泉 忍

秋はたっぷりとイベントが控えていて、南河原で日ごろ作ったアート作品、クラフト商品の売上をあげるチャンスであるとともに、ディケア利用者、スタッフともどもフル回転の日々でもあります。

まず、9/16～17の両日には、羽生イオン、西ホールでの販売がありました。巨大なショッピングモールでの販売は初めてであり、また他の作業所と共同での企画でもあったため、いろいろと模索がありました。イオン担当者から聞いたところでは、他のモールでもこうしたイベントは好評で、継続することでリピート客がだんだんと増え、大きな売上につながるという話です（がんばりましょう！）。

10/08は、熊谷事業所＆ギャラリーがオープンし、もちろん常設の販売もします。10/15～19までは、「道の駅はにゅう」でのギャラリー＆販売があります。

「道の駅」での販売も、また5日間連続ということも、今までに例がなく、商品のストックや人の配置などで工夫をしなければならないでしょう。10/18は、水城公園でのふれあい祭りでの販売、11月に入ってからは行田、熊谷養護学校での文化祭での販売…あと、忘れてならないのは、11/09、東京ビッグサイトで行われる「デザインフェスタ」に、ディケアこころのブースを出店します。このイベントは、国内外の様々な分野のアーティストが数えきれないほどたくさんのお店を開き、毎回5万人くらいの入場者があるということですので、今から楽しみです。みなさんも、もしよかったらお来ください。

## <羽生イオンの黄色レシートをください！>

毎月11日は、イオンの「黄色レシートの日」。ご存知でした？ひこうせんではイオンのレシートで毎月11日の付のものを集めています。金額の1%がひこうせんの活動資金になります。白いレシートでも有効ですのでよろしくお願いします。

## 『ディケアの販売のお知らせ』

11月7日（金）・21日（金） 市役所販売 12:30～14:30

1日（土） 行養まつり

8日（土） 熊養まつり

9日（日） デザインフェスタ

11日（火）・18日（火）・25日（火） みらい販売 11:30～13:30

14日（金）・28日（金） やすらぎの里販売 11:30～13:30



## <トピックス>

企画広報部 類地亜希子  
金子昌代

### ●ワークショップ『ゴッドアイを作ろう！』&『料理教室』

9月4日（木）、ワークショップ「ゴッドアイを作ろう！」が行われました。ゴッドアイ（=神の目）とは、アメリカネイティブインディアンがお祭りで使う道具みたいです。わりばしに毛糸を巻くだけでオシャレな飾りができました。また25日（木）には、「やすらぎの里」で、堀越さん指導による料理教室が行われました。イタリアンサラダとコンソメスープ。ロールパンにもぱっちりマッチして、楽しいランチとなりました。



### ●県出張歯科検診

9月11日（木）、県の出張歯科健診が行われました。加須市保健センターから歯科医師、歯科衛生士の方も来て、みんなの歯の検査をして下さいました。これからは、正しい歯磨きをしましょう！



### ●羽生イオンでの販売

羽生イオン西モールにて、市内5団体による販売がありました。羽生イオンという巨大ショッピングモールでの販売は初めてであり、これからも続けることで認知度が上がればもっともっと売り上げは伸びるでしょう。



### ●9月のレクリエーション

9月は「とんでん」での食事会です。会社からも近く、またトイレスなどのバリアフリーも安全なので（できれば、もうひとつほしいけど）こういったお店がもっとできればいいなあと思います。

# 大庭紀行

ひこうせんレスパイト利用者の大庭 昭さんが旅行や外出をした際に体験したことをお聞かせていただきました！

今回の旅先は東京にある江戸歴史資料館です！

江東区江戸歴史資料館の見学、私がアシスタントの協力を頂き友人と一緒に東京江東区常盤にあります江戸歴史資料館を訪れたのは秋が日増しに深まりを見せる10月下旬のことでした。農家の庭先の柿が赤く色づいていた。刈入れの終わった田んぼにふと一束のしさを感じる今日この頃です。当日は秋晴れの穏やかな一日でもあった。電車とタクシーを乗り継いで約1時間30分程で歴史資料館に到着致しました。職員の案内で見学をすることになりました。

見学の様子も伝えていただいたのですが、ここに収まりませんので別紙に記載させていただきます。

200年程前の江戸は既に人口も150万を数える、世界でも有数の大都市になっておりました。当時の江戸は大変水路が整備されておりまして、食料品のほとんどがこの水路から陸上げされておりました。江戸城の回りは大名の上屋敷が含めありました。またその回りを旗本の武家屋敷が並んでおりました。表通りは商人とあきんどの店が並び、裏に入って長屋がありました。長屋の店子と大家とは深い関係で繋がっていました。店子は生活に困っている時も米や味噌を貸し与えたり、また年頃の男女がいる時には仲人の世話をしておりました。当時の江戸は大変治安もよく長屋などにはほとんど泥棒も強盗も入っておりません。入るとしたら大きな商人のお店やあきんどのお店でした。当時江戸は国から来る武士はほとんどが単身赴任で来ておりました。殿様は参勤交代で国元に帰ったり江戸へ来たり、1年置きにしておりました。奥方様は国元へ帰ることを許されませんでした。そのまま江戸に留まり、殿様が亡くなつて跡目を継いだ時には国元へ帰ることができたのでしょうか。奥方様はほとんど国元へ帰ることもなく殿様が亡くなつたあとは、すぐに髪を下ろして仏門に入る人が多かつたとも聞いております。また、江戸の人口は増えるのに従つて土地が手狭になりますので、海を埋め立てて今の深川界隈の土地はほとんど海を埋め立てた土地だと聞いております。話がなかなかまとまらなくて申し訳ありません。これで見学を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

これは大庭さんの録音してくださったテープを書きおこして記録しているものです。  
実際とは多少なり異なっているかもしれません、ご容赦ください。

# あと！キミコ

あなたの夢をかなえるために

「夢をかなえるゾウ」

齋藤 貴美子（副理事長）

5月号で次に「夢をかなえるゾウ」という本について書きましょうといつてから、次々書きたいことがあって、書かずについたら、ドラマが始まってしまいました。4チャンネルで木曜日深夜（24:28～）にやっています。遅れをとつてしましましたが、紹介がてら、「夢をかなえるゾウ」について考えてみたいと思います。

この本は、ガネーシャというインドの象の神様が夢や目標を実現するための能力を身につけるための課題を出していって、ひとつずつ実行していくれば効果があるというものです。しかも、多くの人に支持されて、ベストセラーになっています。読んだ人の多くが、この本に書いてあることは、今までの人生論や成功本と違って、わかりやすく、実行可能なものばかりだといつているのです。

たとえば、1番最初の課題は、「靴をみがく」、2番目は「コンビニでおつりを募金する」、3番目は、「食事を腹八分におさえる」といった具合です。そして、それぞれの課題をガネーシャとの軽妙な会話（しかもガネーシャは何故か関西弁を使う）を通して、私たちに教えてくれるので。

そして、こうも言います。「人がやりたいこと、人が持っている夢、人がどうなつたら幸せや感じるのか、そのことを考え続けていけば、成功なんですかや」とか、「どれだけ人を幸せにできるか、そのことにどれだけ喜びを見出せるか。それこそがたつた一つの成功の秘訣なのだ」とか、人がなかなか到達できない境地に誘うのです。

私たちは、毎日の生活のなかでどんなにか、人を幸せにできるチャンスに囲まれて生きていることでしょうか？

まずは、自分が何をしたいのか、夢はなんなのか、それは自分以外の人を幸せにするものなのか、考えてみて下さい。必ず、自分が今やっていることのなかに人を幸せにできる道があります。

自分で考えてもなかなかわからない方は、本を読むか、テレビをみてください。人生が変わるかもしれませんよ。

## コラム

# 温故知新

戦後まもない頃に日本の知的障害者福祉の父と呼ばれた、滋賀県にある知的障害児等の施設「近江学園」を創設者の「糸賀一雄」氏が「この子らを世の光に」という福祉理念(思想)を敬称しました。このことは、多くの人が障害者児に対して同情的なイメージから「この子らに世の光を」言うでしょうが、糸賀氏の理念では、「この子ら(障害児)」を主体的に捉えた当時としては画期的な思想でした。

このことは、自立生活センターの理念である「当事者主体」に同じ考え方だと私は思っています。

多くの施設ではこれまで、月単位で行政から運営費が支払っていました。しかし、障害者自立支援法に移行され運営費が日額払いになりました。これによって、施設運営が非常に厳しい施設もあります。そのことは、施設側は死活問題ですが、利用者(障害者)側から見たらこのことは決して悪いことではなく、むしろ利用者にとっては有利な側面もあります。何故なら、これまで一つの施設しか利用が出来ませんでしたが、日額化によって、複数の施設を利用が可能となりました。それは正しく利用者が選択出来る制度になったことを意味します。

これは、一般社会で昨今言われている「終身雇用」の崩壊が、障害者福祉でも「終身施設」の崩壊されつつあります。

これまで障害児者を持つ親達の要望で施設重視の施策になっていましたが、自立生活運動等を通して障害当事者による団体が組織され、これらの団体の目的は、自立した地域生活を支援することで、これによって、行政も当事者の声も無視出来なくなりました。

このようにこれからもまだ課題が山積しています「障害者自立支援法」をはじめとする障害者施策等が当事者の声が最大限反映するものでなければ意味がないと私は思います。



記：木村浩章

## 各部署からのお知らせ

### PAGからのお知らせ

#### 重度訪問介護従事者研修受講生募集

脳性まひ者等全身性障害者の重度訪問介護従事者養成研修です。

##### 研修課程

(1) 重度訪問介護従事者基礎研修及び追加研修課程

※原則として、基礎、追加研修2課程の受講をお願いします。

定員20名

##### 受講料

一般 10,000円 学生 8,000円

一般、学生共にテキスト代を含む(11月16日(日)に集金致します。)

その他交通費及び飲食費も個人負担でお願いします。

##### 受講資格条件 大学生以上

会場 NPO法人CILひこうせん事務所

募集期間 平成20年10月1日(水)～10月31日(金)但し、定員20名になり次第締め切ります。

応募方法 応募用紙に必要事項を記入の上、下記へ郵送又は、ファックス願います。

有限会社 パーソナルアシスタントぎょうだ

住所 〒361-0071 埼玉県行田市栄町22-5

Fax 048-564-6645 電話番号 048-564-6644

詳細につきまして、上記連絡先までお問い合わせください！

### 企画広報部からのお知らせ

#### 11月の共生ゼミ

来月の共生ゼミは、11月16日(日)に行います。

##### 内容

Aグループ 10:00～12:00

Bグループ 14:00～16:00

「事故対応」

「アウトサイダーアート実践例3」

場所はひこうせん事務所内です。

ご都合のよろしい方は是非来てください。

#### みんなの広場 開催します！

全体集会の名前は「みんなの広場」に決まりました。

ひこうせんについて、聞きたいことがあったり、言いたいことがあれば、みんなの広場で言うことができます。みんなの広場には、どなたでも参加できます。

11月の開催日

11月21日(金) 10:00～ 場所：ひこうせん事務所

ぜひご参加ください！

# 大庭紀行 本編①

「鰯を 20 日間 ぐらい干してその干したやつが木綿を栽培するのに肥料になった訳です。木綿の栽培は関西地区が盛んでしたから、この江戸の所に關西に刈り方から下り組が集まつてね。鰯が九十九里千葉のあの辺、かなり捕れましたから、九十九里から銚子の利根川をずっと上って江戸に入って、この川の方に物流には暴風なんてこの深川には 4 つのこの肥料、鰯を肥料を値上げする場所がそこで位置におしらえてせりを落とす訳です。前この建物全体この資料館そのものは 20 年経ちますから、江東区は工場が軍事工場が多かったせいもあって、その繊細に完封なしまでにやられましたから、昔の古い建物だとかは、ほとんど焼失していない。良くこの辺のどこかにいざとなったら、それで工場で着いてね。お客さんのそのご要望の合わせて作ったやつを売るのはこの個人者みたいなもんなんだ。長い木を置いたところこの河原の奥にですね。河原の大きさはそんなに江戸時代から変わらないの昔から 60 キロとか変わらないですね。昔から江戸時代から木を切るのも大変なんだよね。本当に簡単に確認しまして防犯とかそういう類のものを町の役人じゃなくて町で火消しっていうのは町で雇っています。各町でただしあはお医者さんとかはここには着いていないんだけど、小さな規模がもう 1 つあって、そっちから出入りでした。広場の大判屋を必ず町で雇って 1 人 24 時間おりましてね。それは管理それに許可を貰わないとだめなのだ。出入りは一切だめ。この町の全体でやっています。非常に住みやすかったというね。日本橋界隈から旦那さんが来て結婚して、この泊まり宿でいい人と密会する事もあるでしょうし、屋形舟でそういうた話をすることもあるでしょうし、ここは宿泊施設じゃなくてどちらかというと、料理がちょっと料理屋って大丈夫じゃなくてね。いっぱい飲みやみたいな感じなんです。ここでちよこっと話してから、本格的な料亭に行きたいんです。それよりここは日本橋界隈から今日の排水した所の横の近くはですね。屋形舟なんかが行き来して、屋形船なんかだと中が見えないからね。これは舟宿ですから船便の営業所みたいなもんですね。舟が来た時に乗ったり、それから向こうから上方から来た船ね。古い荷物をここで預かって、ここに商売の誰かが取りに来るっていうその営業所みたいなんです。やっぱり、江戸では 1 番火事が多かったです。風で飛ばされないから。昔、1 月とか 2 月とか 1 番風が多かったね。やっぱり北風だの長いから薪や吹くと火事が多いんで、24 時間にここに番人が上っているんじゃなくてね。大体もう経験から火事が多そうだな。火事がどつか出るんじゃないかなと言うと、ここに上ってそれで見るすり版とかね。遠くでちょっと火の手が上がると、その距離に合わせて感覚が長いのは遠くだよとすり版とおしゃったけれども、もうずっとすり版の打ち方だともうすぐ側だから逃げる様にして、昔は、釜戸で火を焼き付けていたからね。もう、風を吹いても火の子が飛んじゃって。紙だから。広くって町の 1 角は完成なんて言うかね。火事になっても隣に移らない様にこういう広場を作っていたんですよ。ここからこっちが隅田川という想定なのです。火はここで止めると言う様なこう言う約束でそれはまるで人が寄って来ますから、こういう水じゃやだとかね。今の喫茶店みたいにしたりね。それから屋台がやっていたのか、昔の方はいっぱいだから、今みたいに仮設住宅を作るんじゃなくて、そうやって来ていたんですね。昔の人は風情があ